

令和7年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 5月予報

【麦類】
赤かび病

本年のさとのそらの出穂は4月12日(11/7は種：農業技術センター作物部調べ)と平年(4/9)に比べやや遅くなりました。本病の発生には、開花期～乳熟期の気温や降雨、湿度が大きく影響します。過去3年間の赤かび病の発生量は平年に比べ多かったことから、ほ場の菌密度も高いと予想されます。今後の気温は高いと予想され、曇雨天が続く場合、穂での発病や発病穂内での二次感染が懸念されるため、追加防除を実施してください。

なお、出穂期は、品種や播種時期、環境条件の違いにより大きく異なる可能性がありますので、ほ場の出穂・開花状況を確認し防除日を決定してください。

【果樹】
果樹カメムシ類

果実を加害するチャバネアオカメムシの越冬成虫量は平年の約1.9倍と多く、フェロモントラップへの誘殺数も平年より早く増加しています。サクラ果実など餌植物が落下する5月中下旬頃には、ナシ園などに大量飛来し、吸汁被害が発生する可能性があります。また、昨年ツヤアオカメムシの予察灯による誘殺数(岐阜市)は、過去30年間で最大でしたが、今年もフェロモントラップへの誘殺が早くから認められています。

これらカメムシ類の発生動向については今後の情報に注意してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期(5月)

病害虫名 (防除適期)		生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬		
水稲	生育(コシヒカリ)			< 田 植 え >					・田植え 5/9予定(農業技術センター)	
	イネミズゾウムシ		並	越冬世代成虫>					・箱施薬を実施する。	
	ヒメトビウンカ		多		<第1世代幼虫※>			<第1世代成虫>	・ほ場周辺や畦畔の雑草処理を実施する。	
	防 除 適 期			▲ (箱施薬)イネミズ・ヒメトビ						※幼虫発生最盛期は小麦ほ場内
麦類	生育(さとのそら)		やや遅						・出穂期 4/12(平年 4/9：農業技術センター)	
	赤 か び 病		やや多	< 第 二 次 感 染 期 >						・開花始め及びその10日後の2回防除を徹底
	防 除 適 期			～ ▲ 赤かび病						し状況に応じて追加防除を実施する。
かき	生 育 (富 有)		並			<開花期>			・展葉期 4/6(平年 4/4：農業技術センター)	
	岐阜西濃	ハマキムシ類	少	越冬世代成虫>				<第1世代幼虫>	・幼虫発生初期の防除を徹底する。	
	中 濃		やや多	<越冬世代成虫>					・岐阜・西濃では、ミツバチの導入時に注意	
	防 除 適 期			▲ ～ 岐阜・西濃						し防除を実施する。
	フジコナカイガラムシ		並	越冬世代幼虫 (越冬場所からの移動) >						・昨年の多発箇所を確認して重点的に防除を
	防 除 適 期			～ ▲						実施する。
なし	生 育 (幸 水)		やや遅						・開花最盛期 4/12(平年 4/9：農業技術センター)	
	黒 星 病		並	初発生 ～ 発 病 最 盛 期 >						・薬剤抵抗性がつきやすいため同一系統薬剤
	防 除 適 期			～ ▲						の連用は避ける。
果樹	カ メ ム シ 類		多	越 冬 世 代 成 虫						・サクラ果実吸汁率調査など、今後の情報と
	防 除 適 期									発生に注意する。
茶	生育(やぶきた：池田)		並	摘 採 期 >						
	ハ マ キ ム シ 類		やや少	<越冬世代成虫>				<第1世代幼虫>	・ふ化期～若齢幼虫期の防除を徹底する。	
	防 除 適 期			▲ 岐阜・西濃						
施設野菜	トマト	灰 色 か び 病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は増加すると予測される。 (発病果率 0.0%)					・発生初期の防除を徹底する。	
		す す か び 病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。気温上昇に伴い発生が増加すると予測される。 (発病小葉率 0.0%)					・施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。	
	キュウリ	べ と 病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生が増加すると予測される。 (発病葉率 0.0%)					・葉かび病では、薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。	
		褐 斑 病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。罹病性品種では発生に注意する。 (発病葉率 0.0%)					・うどんこ病は、乾燥条件でも発生するため注意する。	
		う ど ん こ 病	やや少	調査ほ場で発病が認められる。気温上昇に伴い発生が増加すると予測される。 (発病葉率 0.5%)					・使用する薬剤は、FRACコードを参照して同一系統の連用を避け、抵抗性・耐性の発生を回避する。	

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬	
野菜	コナガ	やや多							・薬剤抵抗性がつきやすいため同一系統薬剤の連用は避ける。
	アブラムシ類	並							
	防除適期								・ <u>アブラムシ類</u> 定植時に粒剤施用する。

注1) ▲、▲～▲：防除適期
注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域
注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

麦類赤かび病

本病は、主に穂で発病します。麦稈または稲の刈り株などで越冬した菌糸、分生孢子や子のう孢子が一次伝染源となります。春に濡れ条件と温度条件を満たすと孢子の飛散が始まり、風などで麦類に運ばれます。

麦類の出穂から乳熟期は穂の抵抗力が低く、感染好適条件が続くと、菌は穎の気孔などから侵入して小穂を侵します。穂にみられる桃色のカビは、分生孢子の集団です。そして、分生孢子から分散して二次伝染します。そのため、出穂後の穂への侵入阻止と二次伝染の飛散を防止することが大切です。

防除適期は開花始めとその 10 日後です。各地域の麦の生育状況をよく確認し、2回防除の実施を徹底してください。登熟期以降に降雨が連続するなど、二次伝染の危険性がある場合は、必要に応じて同間隔で追加防除を実施してください。その際は、耐性菌の発生を防ぐため、F R A Cコードを参考にして同一系統の薬剤の連用は避け、かび毒DONの生産を抑制する効果のある薬剤を使用してください。また、薬剤の使用にあたり、登録内容と収穫予定日（収穫前日数）に注意してください。

※ DONの産生を抑える効果が高いか、効果が確認されている薬剤
チオファネートメチル、テブコナゾール、プロピコナゾール、
イミノクタジン酢酸塩 など



小麦の穂に発生した赤かび病（丸印；令和4年 関市）

なし黒星病

本年の幸水の発芽期は平年並、開花期は平年に比べやや遅くなりました（農業技術センター、下記参照）。

品種	年度	発芽期	開花期 (最盛期)
幸水	令和 6	3月12日	4月9日
	令和 7	3月13日	4月12日
	平年	3月13日	4月9日

本病は、前年の落葉上に形成される子のう孢子と腋花芽基部に形成される分生子が第一次伝染源となり、葉や果実に発生します。

葉への感染しやすさは豊水が最も高く、次いで長十郎や幸水が感染しやすいとされています。果実への感染は幸水が際立って高く、特に開花後の幼果期、果実の生育後期は感染しやすいとされています。

重要な防除時期は、開花直前および満開約10日後と果実肥大期の開花65日後（6月下旬頃）～開花85日後（7月上旬頃）です。予防的防除を徹底し、発生が認められるほ場では、同一系統薬剤の連用を避けつつ必ず有効な薬剤による防除を実施してください。

また、果実肥大に影響のない程度に罹病部位を除去し、ほ場内の菌密度を下げてください。



果柄に形成された孢子（丸印；令和5年 美濃加茂市）

農薬の安全使用に努めましょう！！

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報（名古屋地方气象台 4月24日発表）

向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並または少ない、日照時間は平年並または多いと予想されています。天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
二次元バーコード